

非行少年とその生活環境

山本健士郎

1. はじめに
2. 少年非行の現状と特徴
3. 非行少年の生活環境
4. おわりに

1. はじめに

私は、少年法について大学で講義を受けている中で、少年法は、第1条で「少年の健全な育成を期し、非行のある少年に対して性格の矯正及び環境の調整に関する保護処分を行う」ことを規定していて、少年には可塑性があるということから更生の余地があるということ学んだ。私はこの少年の可塑性について、更生の余地と同時に非行につながるような悪いことに対しても大きな影響を受けていくのではないかと疑問に思った。そのため、少年の生活環境で、人と関わる機会は家族関係と友人関係が主なものであり、これらの生活環境が未成熟である少年に対して大きな影響を与えているのではないかと考える。

そこで、非行少年がどのような生活環境にあると、非行を起こす要因となるか検討していきたい。

2. 少年非行の現状と特徴

日本の少年非行の検挙人員の推移について、法務省の令和5年版犯罪白書では、「少年による刑法犯、危険運転致死傷及び過失運転致死傷等の検挙人員の推移には、昭和期において、26年の16万6,433人をピークとする第一の波39年の23万8,830人をピークとする第二の波、5年の31万7,438人をピークとする第三の波という三つの大きな波が見られる。平成期においては、平成8年から10年及び13年から15年にそれぞれ一時的な増加があったものの、全体としては減少傾向にあり、24年以降戦後最少を記録し続けていた。令和に入ってから戦後最少を更新し続けていたが、令和4年は前年からわずかに増加し、2万9,897人(前年比0.3%増)であった。」と調査している。また、共犯事件について、令和4年における刑法犯の検挙事件の総数を見たときに少年のみによる事件での共犯率は26.9%であり、20歳以上の者のみによる事件での共犯率は12.5%となっており、少年のみによる共犯率の方が高い。この結果は、令和4年のみならず、どの時期の共犯率

を見ても少年の方が共犯率は高くなっている。¹共犯率が高いことは少年非行の特徴であると言えるだろう。

3. 非行少年の生活環境

まず、一般少年と非行少年の比較を見ていきたい。内閣府が平成 22 年 5 月に、小学生から大学生までの一般少年と、警察に補導された少年と観護措置少年の非行少年を対象としたアンケート方式の調査である『非行原因に関する総合的調査』を見ていく。この調査において友人関係に関わりのある項目を見ると、「友達と深夜まで遊び回ったことがある」では、一般少年の中学生は 1 割、高校生は 4 割であるのに対し、非行少年は中学生と高校生どちらも 8 割程度あると答えている。「友達と酒を飲んだことがある」では、一般少年の中学生は 9 割、高校生は 7 割がないと答えているのに対し、非行少年の中学生は 3 割、高校生が 2 割だけが酒を飲んだことがないと答えた。「タバコを吸ったことがある」では、一般少年の中高生は 9 割がタバコを吸ったことがないと答えたが、非行少年の中高生はタバコを吸ったことがないと答えたのはたったの 3 割であった。これらの友人関係に関するアンケートの結果を見ると、それぞれの項目は非行傾向に直結するような内容が多くなっているためか、一般少年と非行少年の回答に大きく差がある。そのため、非行傾向の行為の経験がある少年は非行少年になりやすい傾向があるのではないかと考えられる。続いて、家族関係についての項目を見ると、「学校の勉強について親と話をする」では高校生の一般少年と非行少年との差はほとんどなかったが、中学生の一般少年が 6 割話をしているが、非行少年は 3 割程度しか学校の勉強について話をしていないという結果になっている。「夕食を家族と共にする」では中高生ともに、非行少年よりも一般少年の方が夕食を家族と共にする割合は高い。「朝食の頻度」では、一般少年の中学生は 8 割以上、高校生は 7 割以上が毎朝食べると回答をしているが、非行少年は中学生も高校生も毎朝食べるのは 3 割程度である。²これらの家族関係のアンケートを見ると、夕食を家族と共に行っていないことから、学校の勉強について親子で話がないことも少しは関わっているのではないかと考える。また、朝食に頻度に関しては非行少年が毎朝食べていると答えている割合が圧倒的に少なく、夜遅くまで遊んでいることからくる生活のリズムの乱れなどから

¹ 法務省「令和 5 年版犯罪白書（2023 年 12 月 8 日）」

https://www.moj.go.jp/housouken/housouken03_00127.html (2023 年 12 月 20 日閲覧) 参照。

² 内閣府「第 4 回非行原因に関する総合的研究調査」（2010 年 5 月）
<https://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/hikou4/gaiyou/gaiyou.html> (2023 年 12 月 20 日閲覧) 参照。

るものなのではないかと考える。そのため、家族関係のアンケートでの非行少年と一般少年の調査結果の差は、非行そのものが直接的に関係するものというよりかは、非行をしていることによって間接的に起きる差であるのではないかと考える。

次に、非行少年が生活している中で起きていた被害に関する調査を見ていきたい。法務省による全国少年院の中間期教育過程に在籍する全少年に対して行なった調査の『少年院在院者に対する被害経験アンケート』を見ていく。このアンケートによると、家族からの身体的暴力や性的暴行、不適正な保護対応などの被害を受けた経験があると答えた少年は、約73%であり、非行を行っていない少年よりも多くが家族からの被害経験がある。次に友人・恋人・先輩から身体的暴力や性的暴行、不適正な保護対応などの被害を受けた経験があると答えた少年は、約50%であった。そして、家族からの被害、友人・恋人・先輩からの被害、どちらの被害に関しても、その内容について1番多い被害経験であったのは身体的暴力であり、70~80%の少年が身体的暴力を経験したことがある。また、被害の回数に関するアンケートでも、被害が「1度だけであった」ということは、どちらのケースでもほとんどなく、「繰り返しあった」と答えるのは、家族では約85%、友人・恋人・先輩では約80%であり、ほとんどの少年が一度で終わることなく、繰り返し被害を受けていた。そのほか、これらの被害をいずれも経験していない少年はわずか4%ほどであった。³このアンケートの結果からは、非行少年は何かしらの被害経験を受けるような環境にいることが多いことがわかる。そして、その多くが身体的暴力であり、それが繰り返し行われるため、少年にとって暴力がある環境というのが非行につながるのではないかと考える。

4. おわりに

前章での調査から、少年にとって非行を起こす可能性に関して、少年の生活環境が関わっているのではないかと考える。まず、家庭関係、友人関係どちらにおいても共通して言えることとして、身体的暴力などの被害経験がある非行少年がほとんどであるということである。そのため、少年自身が何かしらの被害を受けるような環境にあると、非行の可能性が高くなるのではないかと考える。しかし、被害経験と非行についての関係性について、実際にどのような心理状態で非行を起こすようになるかなどは見つかっていない。私見では、被害経験があることで、身体的暴力を受けたことがある少年であれば、暴力をされたことでのストレスや足掻きに対しての矛先が周りにいってしまうことや、暴力をすることへのハードルが下がってしまう、暴力をすることが対処の方法だと思ってしまうなどが起き、悪いこと

³ 法務省「少年院在院者に対する被害経験のアンケート調査」（2001年3月）

<<https://www.moj.go.jp/content/000074918.pdf>>（2024年1月4日閲覧）参照。

をすることのハードルが下がった結果、被害を受けたことによって溜まっていたものが非行をすることに向けられることになるのではないかと考える。また、一般少年と非行少年の比較を見たアンケート結果では、家族関係に関する回答から直接的に非行につながるような結果はなかったが、友人関係からは、非行少年には友達と深夜に遊び回るやお酒、タバコなどの非行傾向が一般少年との差がはっきりと出た回答であった。そのため、上記のような家族からの虐待がない場合は、友人関係の方がより少年にとって悪影響を与えている機会が多くあるのではないだろうか。これによって、非行少年が減り、非行の影響を受ける少年自体が減ることで、検挙人員が近年までずっと減少傾向が続くことができたのではないかと考える。

以上のことから、少年の可塑性は、更生という良い意味にも、非行の要因という悪い意味でも柔軟に少年に影響していくものであるのではないかと考えた。ゆえに、少年の生活環境が非行につながる要因ともなり得ることから、非行をさせないためには少年の生活環境を整えることも非常に重要な点である。この生活環境というのも、家庭での虐待があれば、少年は家には帰りたくはなくなり、心地のいい居場所を見つけるために家の外で過ごす時間が増える。そして、深夜まで一緒にいれるような仲間と共に長い時間を過ごすようになるなどの、循環があるのではないかと考える。したがって、少年にはいつでも帰れる居場所を作ることが必要であり、その居場所が健全に成長できる場所であることが重要であるのではないかと考える。このような居場所づくりができることが、少年の生活環境を整えることにつながり、非行少年を根本的に減らしていくことができるのではないだろうか。